

「一生青春 一生感動 一生青春 一生勉強」

「おの 100」は私のモットー「一生青春 一生感動 一生青春 一生勉強」にぴったりの事業であったように思います。大きな感動があり、そして、多くの学びがありました。このボランティアに参加していた時の自分は、本当にいきいきしていて、いい顔をしていたなあというのが自分でも分かります。いつでも、そんないきいきした、青春を感じることでできる自分でありたいと思っています。

そして、私は、このモットーにぴったりの職業である教員になります。この進路決定に、「おのみち 100 Km 徒歩の旅」でのボランティアスタッフとしての経験はとても大きく関係していると感じています。それは、教員になりたいという思いを確信に変えてくれた経験であり、そして、「理想の教師像」を明確にしてくれた経験であるからです。私は、「子ども一人ひとりの良さに気づき、伸ばすことのできる教師」になりたいと考えています。

本番5日間は、子どもの頑張る姿や笑顔に励まされたりと子どもと接することのできることの喜びを感じることができました。しかし、班運営がうまくいかず悩むこともありました。この問題を解決していく中で、子どもそれぞれの違いや良さを認め合える環境づくりの大切さを学びました。この学びが、「子ども一人ひとりの良さに気づき、伸ばすことのできる教師」という理想の教師像につながっています。

また、子どもと接する中で多くことを学び、経験し、自分自身も成長することができました。学びの場、成長の場は、本番5日間だけではありません。当日までの研修もまた貴重な経験であり、この研修があるからこそ、本番でより多くの学びがあったのかもしれませんが。研修の内容から学ぶことも多くありましたが、それ以外にも多くの学びがあり、自分自身の成長がありました。「子どもたちのために思い、研修に真剣に取り組む」それが自分の成長へとつながったのだと思います。

研修では、受身ではなく、学生リーダーが主体となって取り組むことが望まれています。他大学の学生や異学年の学生、そして社会人の方など、構成メンバーは多様であり、その中で主体的、積極的に取り組むことは、それまでの私は苦手なことでした。しかし、私は、この研修に積極的に、そして主体的に参加できたと思っています。それは、まわりの環境のおかげであると思います。多様な意見を聞く雰囲気が出ていました。温かさがありました。そのような環境のなかで、多くの学生リーダーが自己主張することによって、自分とは異なった多くの考え方に触れることができ、自分の視野も広がったように思います。

教員になってからも、この事業で学んだことを生かし、「できる できる」という必勝の信念のもと、日々ステップアップしていきたいと思っています。

「おの 100」との出会い、そして、おの 100 を共に作り上げてきた参加者の子どもたち、学生リーダー、社会人スタッフの方々との出会い、その出会いに心から感謝します。